

でんち

社団法人 電池工業会

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011

東京都港区芝公園三丁目5番8号

機械振興会館内

電話 (03) 3434-0261 (代)

ホームページ <http://www.baj.or.jp/>

ご意見・お問い合わせ <http://www.baj.or.jp/contact/>

発行人 中谷謙助

平成23年1月1日



年頭のご挨拶

社団法人 電池工業会

会長 本間 充

新年あけましておめでとうございます。
平成23年の新春を迎えるにあたり、
一言ご挨拶を申し上げます。

昨年の回顧と今年の展望を申し上げます前に、日頃より電池工業会の発展と成長にご厚情を賜っております関係各位に対しまして心より感謝を申し上げます。

昨年は、ノーベル化学賞を鈴木名誉教授と根岸特別教授が、ダブルで受賞され、また、小惑星探査衛星「はやぶさ」が、2003年5月9日の打上げより、実に7年以上の年月を経て、ほぼ目的を達成して帰還するなど、



日本の技術力を世界に示した明るい話題もありました。特に「はやぶさ」には、当工業会会員2社が製造した2種類の電池も搭載され、日本製電池の技術力と信頼性を十分世界にアピールできたものとうれしく思っております。

さて、日本経済は、2008年秋のリーマンショック後しばらく低迷が続いておりましたが、2009年4月以降、

中国やアジア諸国への輸出の増加、また、日本政府によるエコカー補助金やエコポイント制度など国内景気刺激策による好影響を受け、日経平均株価も昨年4月には一時1万1千円台を回復し、景気の底を脱した感がありました。

ところが、その後、欧州では、ギリシャの財政破綻に端を発して各国経済が悪化し、ユーロの信頼が失墜すると共に為替も一気にユーロ安となり、回復の兆しもまだ見えません。一方、米国経済も昨年4月に発生したメキシコ湾での原油流出事故や欧州の景気悪化の影響もあり、依然として低迷しており、雇用情勢も失業率が9%台から下がらないなど、オバマ政権にとっても厳しい状況が続いています。

これらの状況を背景に世界各国では、輸出による経済回復を目的とした自国通貨の安値誘導政策が継続しており、昨年5月以降ドルに対しても急速に円高が進み、日本の輸出主体の企業にとっては、対ユーロ、ドル共に非常に苦しい状況が続いています。

上述しました様な世界経済下、昨年、日本の電池業界は、需要増で販売数量は増加したものの円高、ウォン安で勢いづく韓国企業との本格的な価格競争に対応せざるを得なくなり、電池メーカー各社において、様々なコストダウンの取り組みを実施してまいりましたが、販売価格の下げが止まらず収益面への悪影響は、大きなものがありました。これらを反映し、昨年の電池販売は、月々回復基調にはあったものの、国内市場を主体とする鉛蓄電池以外は、数量の伸びに比べ、金額の伸びが低くなる傾向にありました。全電池の1月～10月期では、前年比113%/106%（数量/金額ベース）でした。内訳は、一次電池：同106%/94%、小形二次電池：同128%/108%、鉛蓄電池：同115%/116%の結果です。電池業界としては、全電池において早期の販売価格の安定が望まれます。

この様な電池販売状況の中で、新市場として大きく期待が膨らみつつあるのが環境分野です。昨年度より自動車関係でHV、EVなどが普及期に入ってきており、各社で本格的に量産が立ち上がる状況になってきています。ある調査会社の調査結果では、日本、欧州、米国と中国4極でのHV、PHV、EVの総販売台数は、2020年には1300万台に達するとの予測も出ており、心強く感じております。

また、CO₂削減の切札とされる次世代送電網「スマートグリッド」の実験や事業化も国内外で着々と進ん

でおり、民生用市場、自動車関連市場に次いで大型蓄電池市場は、「国家成長戦略」の後押しもあり、将来の大きな事業に成長すると予想されます。

2020年には、大型蓄電池の市場規模は、自動車関連の1.4兆円を上回る2兆円規模に達するとの予測もなされており、全電池市場は、既存電池市場を加えると総額5兆円を超える市場に成長すると見込まれ、非常に心強い次第です。

次に、電池工業会の取り組み重点事項の状況について、簡単にご紹介いたします。

まず、先に述べました商品化が進む様々な用途の大型のリチウムイオン電池に関し、今後、電池工業会が主体的に取り組んでいける様、その事業のあり方について検討する「次世代蓄電池システム検討委員会」を昨年7月に工業会内に設置しました。

「リチウムイオン電池の安全への取り組み」につきましては、2008年11月に改正「電気用品安全法」が施行され、以降、国から公表されるリコールの件数も顕著に減少しており、国内に流通するリチウムイオン電池の安全性を飛躍的に向上させることができたと確信しております。さらに、電池業界は、この基準を世界標準とする目的で、国際規格であるIECでの標準化を目指して取り組んでおり、その規格発行に向け少しずつ前進しております。

また、輸送問題では、本年、米国運輸省が、リチウムイオン電池及び同電池を搭載した機器の航空輸送を「クラス9危険物」として規制する法案を発行したことに対し、世界各国の関連業界も含め、この法案に反対するロビー活動を継続して行っておりましたが、米国運輸省のコメントでは、結論は、今月出る見込となっています。

一方、ニッケル水素電池におきましても、2009年9月のIMO（国際海事機関）会議において、2012年より海上輸送に限り「クラス9危険物」として取り扱わねばならない規制が決定しました。これに対し、特定の試験をパスした電池は、規制の除外となる様、日本政府よりIMOへご提案していただきましたが、現在、「継続審議」の状況です。

環境問題への対応として「再資源化に対する活動」では、小形二次電池についてはJBRCを中心にリサイクル事業を順調に推進しております。また、2009年4

月より、電池工業会内に「ボタン電池回収推進センター」を設置し、ボタン型のアルカリ電池、酸化銀電池及び空気亜鉛電池を対象に新回収スキームをスタートさせました。初年度は、1,071kgの回収実績でした。

一方、世界的にはさらに厳しい環境対応を求められており、EUを始めとしてカナダ、台湾、ブラジルなどで全電池回収義務が拡大しております。会員各社とも、事業継続のため、各国環境規制法への対応が避けられない状況となっております。

社会における電池の役割が大きくなるに連れ、電池業界は、市場や社会から、電池に対して、性能や価格

面だけでなく安全性のさらなる向上や環境配慮設計など様々な要望に応える事が求められるようになってきました。電池工業会では、会員各社一丸となり、過去培ってきた電池技術、巧みの生産技術、コストダウンの経験の強みを生かしグローバル競争に打ち勝ち、また、社会に貢献できますよう、全力で取り組んで参る所存です。

今後とも、関係省庁ならびに関係各位のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

最後に、会員会社様の益々のご発展と、皆様方のご多幸をお祈りし、年頭の挨拶とさせていただきます。

以上

年頭所感

経済産業省商務情報政策局
局長 石黒憲彦

新年あけましておめでとうございます。

我が国の経済はリーマンショック後の危機を克服したものの、急速な円高の進行や海外経済の減速懸念により、昨年夏以降、先行きの不透明感が強まっている状況です。こうした厳しい経済状況を踏まえ、家電エコポイント制度の延長や、将来の成長と雇用創出が期待できる「グリーン産業」の国内での量産工場立地を支援することなどを盛り込んだ、二度の経済対策を講じたところです。今後も、足下の経済の力強い回復に向けて全力で取り組んでまいります。

緊急を要する経済対策に迅速に取り組む一方、我が国の経済を中長期的に復活させる必要もあります。エレクトロニクス・IT産業、サービス産業は、その担い手として大きな可能性を持った分野です。情報通信コストの劇的な低減といった質的变化への対応、新興国マーケットへ躍進の対応、そして、国内・グローバル双方での環境問題や少子高齢化問題といった課題解決の視点を捉えつつ、我が国の経済を牽引する成長産業として、今こそ、官民一体となった戦略的取り組みを行う時期であると考えます。

エレクトロニクス・IT政策については、昨年6月にとりまとめた「情報経済革新戦略」に基づき、まず、



エレクトロニクス産業の競争力強化に取り組みます。革新的低炭素技術であるLED照明やリチウム

イオン電池の生産設備への支援を通じこれらの国内立地を促進するのに加え、「グリーン・イノベーション」の実現に貢献する技術の推進も強化していきます。

また、ITによるユーザ産業や社会システムの高次化も推進します。クラウドコンピューティングの活用により医療・交通・農業など社会が抱える様々な課題を解決する新たなサービスを創出すると共に、スマートグリッドなどのITとクリーンテクノロジーを融合した新たなビジネスの創出や街全体の低炭素化を実現するスマートコミュニティの海外展開も推進していきます。

産業のみならず、行政の世界でもITを一層活用し、電子政府の実現に貢献していきます。今年は、アイデアボックス等のこれまでの取り組みに加え、国民IDの整備等によって、より効率的で国民の皆様に関われた政府を目指していきます。

一方、社会の隅々にITが浸透するに伴い様々なりスクも増大しています。サイバーセキュリティに関する昨今の新たな脅威に対応するため、昨年末「サイバーセキュリティと経済研究会」を立ち上げました。こ

こでの議論も踏まえ、情報システムの信頼性向上やセキュリティ対策の強化に取り組んでいきます。

サービス政策については、「新成長戦略」において、「健康大国戦略」及び「クール・ジャパン戦略」が盛り込まれました。

「健康大国戦略」では、少子高齢化に伴う社会保障負担の増大が課題となるなか、ライフ・イノベーション（医療・介護分野革新）を力強く推進することにより、新たなサービス産業やものづくり産業を育てるチャンスと捉えています。具体的には、医療機関と民間事業者との連携促進による新たな医療生活産業の創出、国外需要を取り込むことで、技術・資本の蓄積による、国内医療を発展させる好循環形成を目指した医療の国際化、日本が誇るものづくり力を活かした医療機器開発、質の高い医療サービスを目指した医療の情

報化等を進めてまいります。

また、「クール・ジャパン戦略」の実現に向け、経済産業省としても必要な組織改編を行います。これまで分散していた担当部署を集約し、コンテンツ・観光等の日本が誇るソフトパワーを一元的に強化していきます。さらに、世界最大のコンテンツ国際見本市である「JAPAN国際コンテンツフェスティバル（コ・フェスタ）」の開催や新たなビジネスモデルであるデジタル書籍市場の環境整備等を行います。

これまで申し述べた政策を着実に実行し、国民が豊かさや安心を実感できる社会を目指して本年も全力で取り組んでまいります。

最後になりましたが、皆様方の御多幸と一層の御活躍を心より祈念いたしまして、新年の御挨拶といたします。

第20回「プロ野球最優秀バッテリー賞」表彰式

今年で20回目を迎えた「2010プロ野球最優秀バッテリー賞」（電池工業会とスポーツニッポン新聞社が制定）の表彰式は、12月2日（木）、東京都港区の東京プリンスホテルで行なわれた。



今回の最優秀バッテリー賞は、パ・リーグからは福岡ソフトバンクホークスの杉内俊哉投手-田上秀則捕手、セ・リーグからは広島東洋カープの前田健太投手-石原慶幸捕手の両バッテリーが受賞した。杉内俊

哉投手はプロ9年目での念願の受賞となった。前田健太投手はチーム初の最多勝利、最優秀防御率、最多奪三振の三冠を獲っての受賞となり、また広島東洋カープからの受賞は今回が初めて。

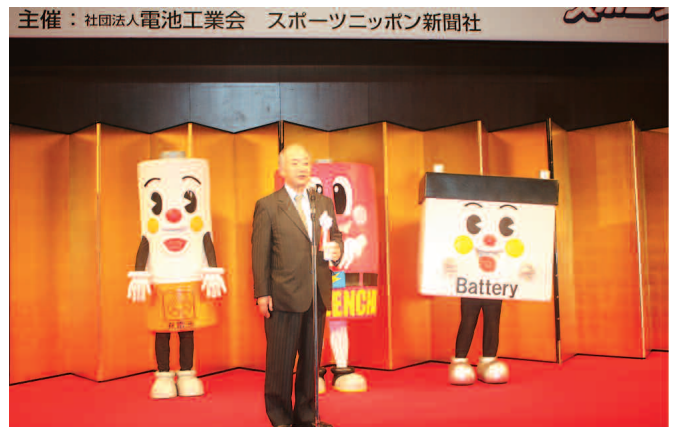
また、今年で20回目を迎えたことから記念イベントとして「歴代ベストバッテリー賞」をファン投票で選ぶなど、区切りの年としてのイベントも盛り込まれた。ファン投票の結果、歴代ベストバッテリーには、第1回受賞の西武ライオンズの工藤公康投手-伊東勤捕手選ばれた。

本間充電電池工業会会長から最優秀バッテリー賞の各選手に賞金100万円と電池1年分が、森戸幸生スポーツニッポン新聞東京本社社長から表彰額が贈られた。また、歴代ベストバッテリー賞の各選手には賞金50万円が贈られた。

選考委員の中畑清氏は「あえて言うが、ピッチャーとキャッチャーの共同作業でもらえるのはこの賞だけである。今後もこのような賞を続けて欲しい。」と、選考委員の締めめの挨拶として語った。

司会にはTBSアナウンサー高畑百合子さん、アシスタント役で“ミス日本”と“ミス日本海の日”を迎え会場に華を添えた。また、当日の様子は多くのスポーツ紙やニュースでも取り上げられ、バッテリー賞の関心の高さがうかがえた。

また、受賞選手選考前に募集して行われたクイズ（本年度の受賞選手を当てるクイズ）には全国各地から多数の応募があり、正解者の中から、大沢健様、持永眞良様、立花高行様の3名の方には10万円の旅行券、鶴巻健二様他99名の方には4選手のオリジナルデザイン1,000円分のクオカードを贈呈した。また、今年度の特別イベントとして歴代ベストバッテリー賞には、応募者全員の中から山崎博貴様に20万円の旅行券を差し上げた。



第57回小形二次電池部会を開催

平成22年12月16日、海谷部会長（パナソニック(株)）を議長に、第57回小形二次電池部会を開催した。冒頭に部会長および専務理事より挨拶があり、引き続き各委員会より活動報告が行われた。

1. 海谷部会長挨拶

今年は、円高やDOTの規制強化など事業に影響を及ぼす事項があり、法規制などに対してはMETIとも協力して対応してきた。上半期は景気の回復が見られたが下半期は足踏み状態となっているようだ。資源・材料でも、ニッケル水素電池やリチウムイオン電池など厳しい。来年も大形・据置などへ移行していくと、色々あると思うが、本部会で対応していく。

2. 中谷専務理事挨拶

景気は回復してきていると思っていたが、鉛蓄電池やニカド電池のみで、他の電池はまだ大変である。電安法の第2ステップを来年に控え、小形二次の安全性をもう一度おさらいする機会があったが、過去の日本メーカーのリコール件数の推移を見てみると、2006年をピークに激減し、2008年PSEを施行後は、2009年、2010年ともに0件であった。成果は出せたと考える。

3. 委員会報告

(1) 小形二次電池技術委員会 (富田委員長)

①ニカド・ニッケル水素電池分科会

- ・JIS C 8705（円筒密閉形ニカド電池）は10月に第1回原案作成委員会を開催。第2回原案作成委員会を経て、2011年2月末に原案完成予定。
- ・IEC規格61951-1（統合ニカド電池）はメンテナンス対応。EU電池指令対応で、組電池の容量表示を追加。3rd-CD段階。
- ・IEC規格61951-2（ニッケル水素電池）は改訂作業中。FDISをSA21Aの幹事が現在作成中。
- ・JIS C 8708（ニッケル水素電池）は、来年度のJIS改訂作業について応募する。2011年1月の規格協会のヒヤリングを受けた後、契約する予定。

②リチウム二次電池分科会

- ・JIS C 8711（ポータブル用リチウム二次電池）のJIS改訂に応募する。対応国際規格IEC61960のCDVが承認されたので、これをベースにJIS改訂案を審議した。

③据置リチウムイオン電池分科会

- ・IEC62620（大形リチウム二次電池性能規格）の



CD案作成。プロジェクトリーダー会議を東京とパリで実施して、仮CD案を作成した。

- ・IEC62619（大形リチウム二次電池安全性規格）は、パリのプロジェクトリーダー会議で今後の進め方を協議。2011年5月のSC21A会議にCD案を提出する予定。

④PSEワーキンググループ

- ・電気用品の安全に関する技術基準に係る調査検閲をWGを設置して進める。将来的にはEUのニューアプローチをにらみ、5年程度かけて技術基準の内容を理想的なものに変更していく。

(2) リチウムイオン電池安全性技術委員会 (世界委員長)

- ・強制内部短絡試験は、セル解体作業が手作業であるため技術的に難しく、その対策として市販されている自動機を紹介することでその試験法の普及を目指している。Blunt nail crush testについては、IEC62133改訂案から削除された。

(3) 国際電池規格委員会 (古川委員長)

- ・IEC SC21A国際祭儀のIEC62133（小形二次安全規格）の改訂作業は、5月の会議で3rd-CDが審議された。上記審議内容を反映したCDVが11月に発行された。2012年第1四半期に規格発行予定。
- ・SC21A-WG5の大形リチウムイオン電池（自動車以外）のIEC規格化で、IEC62620（性能規格）、IEC62619（安全規格）のタイトルとスコープが決定された。IEC62620は、10月と11月の会議を経てCDの原案がほぼ完成した。2013年に規格化の見込み。IEC62619は2011年6月に規格ドラフト案を配布予定。
- ・ANSI規格においてもリチウムポリマー電池を規格

化することを決定。日本の提案通りに規格化を進めることになった。

- ・IEEE1725（携帯電話用リチウム二次電池規格）の改訂について審議中。規格原案を2010年中に完成させ、2011年に改訂版を発行する見込み。
- ・中国では政府主導でリチウムイオン二次電池安全規格改訂を決定している。2008年の第1回会議から2010年10月の会議まで5回開催された。

(4) 国際電池輸送委員会 (張委員長)

- ・米国輸送規則改訂は、現在審議中で、2011年1月17日に審議終了し、1月24日に最終案が告示される予定である。
- ・国連危険物輸送専門家小委員会では、国連インフォーマルWGで2年にわたり審議された国連38.3輸送試験改訂案や品質管理計画を規則書に盛り込む提案、などが採択された。

(5) 業務委員会 (鈴木委員長)

- ・ニカド電池：2010年第3四半期は海外向けにけん引され、前期比103%、前年同期比142%と引き続き伸長した。
- ・ニッケル水素電池：2010年第3四半期も前期比101%、前年同期比108%と引き続き好調を維持した。
- ・リチウムイオン電池：輸出向け、海外生産分の伸長により、前期比104%、前年同期比107%と伸長した。数量的にも4.2億セルに達した。
- ・小形シール鉛電池：2010年第3四半期は国内生産分が前年を下回ったが、海外生産分が前年を上回り、前年同期比で103%との伸びを持続した。

(6) 広報総合委員会 (高尾委員長)

- ・でんちフェスタは、11月6日（土）に日本科学未来館で開催した。事前告知の強化により昨年を大幅に上回る1,800名の来場者があり会場は終日賑わった。展示物も今年ならではの工夫を凝らした展示も行ない人気を博した。
- ・バッテリー賞は、12月2日（木）に東京プリンスホテルで表彰式を実施。今回20回目の記念イベントとして歴代ベストバッテリーの表彰を行なうなど盛大に実施した。
- ・10月24日（日）広島県福山市で開催された「自動車点検フェスティバル」に出展。バッテリーの啓発を行った。
- ・「電池は正しく使いましょう」PRキャンペーンは、11月に3週にわたり毎日新聞に掲載。北海道から沖縄まで掲載クイズに多数の応募があった。7月も実施した。また、「電池は正しく使いましょう」PRキャンペーンクイズを11月1日～12月31日まで実施

中。HPや業界紙を用いて展開中。

- ・手作り電池教室は夏休みを中心に既に全国30会場以上で実施した。北海道から九州まで全国の科学館等で行った。電池教室を通して電池啓発活動を実施した。
- ・来年度からの新たなイベントとして、名古屋地区での「でんちフェスタ」開催を計画中。

(7) 国際環境規制総合委員会 (高尾副委員長)

- ・「世界の電池環境規制」について、2年に1回の頻度で改訂していく予定。追補版を次回の冊子発行までのつなぎとして作成する。
- ・地域別の情報としては、米国3州で2011年7月1日より水銀含有ボタン電池の販売禁止。欧州電池指令で二次電池の容量表示が義務化され、規則発行後18ヶ月で表示義務化が発生する。コロンビアでは全電池の回収が決議され、7月13日に公式施行になった。

(8) 工場環境委員会 (高橋委員長)

- ・環境配慮型の新工場として、天然水製造工場の見学会を実施。製造ラインは直接手を触れなくてもメンテナンス可能で、CO₂削減の取り組みなど森と共存する工場の印象を受けた。

(9) PL委員会 (森田委員長)

- ・小形二次電池の回収方法について、現行のガイドラインを一部見直し、広報方法やスケジュールを決めた。

(10) 再資源化委員会 (萩原委員長)

- ・10月に廃棄電池の寿命調査を日本リサイクルセンターで実施した。今回で4回目となる。
- ・再資源化率の維持向上策について討議。今後の活動計画を作成する。

4. JBRC報告 (市場グループ長)

- ・会員数が増加しており、2009年度末に比べ12月8日現在で会員数は9法人増加した。
- ・2010年度（4月～11月）の回収実績は、前年同期比で96%であった。電池別では、ニカド電池92%、ニッケル水素電池110%、リチウムイオン電池100%、小形シール鉛電池63%であった。
- ・広報・イベント活動として、2010年度の出展予定イベント10カ所がすべて終了した。また、対象別リサイクルキャンペーンも2件が終了し1件は1月末まで展開中。テレビ、シネアドでの広告、自治体へのPR活動などを実施している。
- ・安全で適正な回収のために、リサイクル協力店向けの啓発ビデオをJBRCホームページに掲載している。

以上

東京地区の活動は他地区に率先して、昭和9年10月に早くも東京府知事香坂昌康宛に「東京乾電池工業組合」の設立発起届を提出しています。この設立発起届には発起人代表として三俣精一郎、松尾英知、林信松の3名が名を連ねているほか18名の名が記されていました。設立発起人には当時に大手企業に属する屋井乾電池(株)や高砂工業(株)、岡田乾電池(株)、日本電業(株)等に属するものの名前も記されていましたが、組合設立の根底には小規模事業者が共同体によって大規模事業者の圧迫から自らを守ろうとする意図がうかがえる内容でした。

当時工業組合を設立するには、その地区内の同業者の三分の二以上の同意を得なければならないという「法定の同意」があったので、発起人代表の林信松及び三俣精一郎は連日警視庁の工場課を訪ねては、各警察署管内の乾電池業者を丹念に調査して探しまわったものでした。当時の警視庁管内には50の乾電池製造事業者があり、その大多数が品川・五反田方面と三河島・尾久方面とに集中していたようです。また、東京地区の事業者のほか、組合地区としては神奈川県、千葉県、埼玉県の事業者15名の参加も得て、合計65名の参加をもって「東京乾電池工業組合」の設立を行うことになりました。

東京乾電池工業組合の創立総会は、昭和10年1月に東京市麴町区有楽町で行われました。当日の

設立同意者は65名でしたが、委任出席を含めると65名全員が出席ということで総会が開催されました。総会の開会の挨拶は、屋井乾電池株式会社代表取締役毛内靖胤が行い、設立総会開催に至るまでの経過報告は、高砂工業株式会社専務取締役駒井久吉が行いました。総会議長には、毛内靖胤が満場一致をもって推薦され議事の進行に当たりました。

また、総会の議決として東京乾電池工業組合の理事に12名が、監事に3名が就任し、初代理事長には毛内靖胤が就任することになりました。東京乾電池工業組合は昭和11年7月に設立許可が下りています。

その後、毛内靖胤の病死を受けて大島貫一(屋井乾電池)が理事長に就任し、神田政吉(神田乾電池)が専務理事に就任しました。

昭和12年に行われた総会では、理事長に神田政吉、専務理事に林信松が就任致しました。また、組合事務所を東京市神田区錦町の屋井乾電池株式会社内に置くことになりました。

昭和13年に入ってから、事務所を東京都滝野川区田端町に新築家屋を設け移転しましたが、たちまち手狭になり田端町内の別の家屋に引っ越しています。

この当時は、昭和6年に勃発した日華事変の影響で、乾電池用資材の入手は日に日に困難になる時代でした。



昭和13年当時の東京乾電池工業組合事務局

平成22年12月度の電池工業会活動概要

| 部会 | 月度開催日 | 委員会・会議 | 主な審議、決定事項 |
|----------|--------------|-----------------------------|--|
| 特別会議、他 | 2日(木) | プロ野球最優秀バッテリー賞表彰式 | 東京プリンスホテルで2010年度最優秀バッテリー及び歴代ベストバッテリーの表彰式を実施した。 |
| | 3日(金) | 広報総合委員会 | バッテリー賞実施結果まとめ、HP掲載内容の検討、PRツール検討、等。 |
| | 3日(金) | 広報ワーキンググループ | PRツール内容の検討、展示パネル内容の検討。 |
| | 3日(金) | 臨時理事会 | 優良従業員表彰者の承認。 |
| | 15日(水) | 164回講習実施委員会 | 神奈川県、東京都にて開催した蓄電池設備整備資格者講習の修了考査につき、可否を判定。 |
| 二次電池部会 | 1日(水) | PL委員会 | H23年度安全啓発審議、他。 |
| | 3日(金) | 自動車鉛分科会 | EU電池指令審議他、SBA改正審議、他。 |
| | 6日(月) | 特利委員会 | 自動車用電池新自主取組のスキーム、他。 |
| | 6日(月) | 二次電池・特利合同委員会 | 自主取組みのスキーム方針、他。 |
| | 8日(水) | 据置アルカリ | IEC審議、消)テキスト改正案審議、他。 |
| | 10日(金) | 産業用電池委員会 | 産業用電池用途、他。 |
| | 10日(金) | 電気車鉛分科会 | SBA改正審議、他。 |
| | 10日(金) | 特利委員会 | 自主取組(リサイクラー)会議。 |
| | 15日(水) | 特利委員会 | 監査対応、他。 |
| | 16日(木) | 産業用電池リサイクル委員会 | 産業用電池リサイクルスキームの改訂案検討。 |
| | 16日(木) | 小形鉛分科会 | SBA改正審議、IEC改正審議、他。 |
| | 17日(金) | 用語分科会 | SBA改正審議、他。 |
| | 17日(金) | 産業用電池技術サービス分科会 | SBA G 0605改正三校審議、定期点検啓蒙リーフレット見直し審議、他。 |
| | 21日(火) | 電気車用電池リサイクル分科会 | フォークリフト用電池リサイクルスキームの改訂案検討。 |
| | 22日(水) | EV鉛分科会 | SBA改正審議、他。 |
| | 22日(水) | 資材委員会 | 資材 新自主スキーム、他。 |
| 22日(水) | 特利委員会 | 自動車用電池新自主取組のスキーム、他。 | |
| 22日(水) | 特利資材合同委員会 | 自主取組のスキーム、他。 | |
| 小形二次電池部会 | 8日(水) | リチウムイオン電池安全性技術委員会 | 本委員会の継続についての審議。 |
| | 9日(木) | 小形二次電池技術委員会 | 活動報告と、IEC関連審議、JIS関連審議、並びに関連委員会の報告。 |
| | 10日(金) | 国際電池規格委員会 | IEC62133・62368-1、IEEE1725、UL1642、ANSI規格について審議。 |
| | 14日(火) | 国際電池輸送委員会 | 国連輸送専門家小委員会の審議内容の報告。 |
| | 16日(木) | 小形二次部会 | 各専門委員会報告・審議事項。 |
| | 17日(金) | 工場環境委員会 | 省エネ状況、ISO14001更新審査等の情報交換。 |
| | 17日(金) | リチウム二次分科会 | JIS C 8711 改訂検討。 |
| | 21日(火) | Ni-MH輸送ワーキンググループ | NiMH電池海上輸送規制への対応検討。 |
| | 22日(水) | 再資源化委員会 | 小形充電式電池の識別表示ガイドラインに関する審議。 |
| | 22日(水) | JIS C 8705 原案作成分科会 | JIS C 8705 改訂審議。 |
| 22日(水) | ニカドニッケル水素分科会 | IEC 61951-1 61951-2 に関する審議。 | |
| 24日(金) | 業務委員会 | 11月度販売実績及び動態確認。統計マニュアルの見直し。 | |
| 一次電池部会 | 1日(水) | 器具委員会 | ホームページ掲載内容の検討。 |
| | 10日(金) | 資材委員会 | 製鉄所訪問。 |
| | 10日(金) | 業務委員会 | 国内需要予測促成について、他。 |
| | 13日(月) | PL委員会 | 一次電池安全確保のための表示に関するガイドライン見直し(6版)、他。 |
| | 15日(水) | 規格小委員会 | IEC60086シリーズ、JIS C 8500改正審議。 |
| | 16日(木) | 技術委員会 | 各小委員会活動報告、他。 |
| | 17日(金) | 一次電池部会 | 各専門委員会報告・審議事項、他。 |

軽自動車専用*¹バッテリー 新製品「Tuflong Mini (タフロング ミニ)」を発売 — 高い充電受入性、高容量、高耐久性の軽自動車に適したバッテリー —

新神戸電機株式会社

新神戸電機株式会社(執行役社長:伊藤繁、本社:東京都中央区明石町8番1号)は、燃費性能に優れ、環境対応車として販売台数が増加している軽自動車向けに、その特性を最大限に引き出すことが出来る、高い充電受入性、高容量、高耐久性を備えた「Tuflong Mini(タフロング ミニ)」を発売いたします。

軽自動車市場は国内自動車販売台数の減少する中で、唯一販売台数が増加する有望な市場となっています。販売台数が増加している理由には、軽自動車は燃費性能に優れ、経済性が高いとの理由から、現行の小型車ユーザーが軽自動車に乗り換える傾向があります。この背景には、最近の軽自動車は、普通車並みのデザイン性・快適性・安全性を確保し、さらに地球温暖化対策の取り組みの一環として、環境対応車に対する自動車重量税、自動車取得税の大幅な免税、軽減措置が実施されたことがあげられます。特にセカンドカーとして、地方都市では女性を中心に購買層が大きく拡大しています。

軽自動車の保有台数が増加する中で、昨今軽自動車におけるバッテリートラブルは増加傾向にあります。その主な原因としては、最近の軽自動車の装備が、電動スライドドア、キーレスエントリー、シートヒーター等、普通車並みの電装品を装着しながら、オルタネーター(発電機)は普通車以下の容量のため、バッテリーは放電傾向で使用されることになり、非常に過酷な使用環境となっている点があげられます。さらに発電制御システム搭載車両*²も増加し、バッテリーにはさらなる高性能化を求められています。また拡大している購買層の軽自動車の使い方の特徴として、近場での足代わりとして使い、比較的長距離走行をしないため、バッテリーがより放電傾向で使われているケースが多くなっています。

当社は軽自動車に搭載されたバッテリーの市場調査を進める中で、高い充電受入性、高容量、高耐久性が、軽自動車のバッテリーには必要であると判断しました。そこで購買層が拡大している軽自動車ユーザー向けの専用バッテリーを発売することといたしました。

新製品「Tuflong Mini(タフロング ミニ)」は、44B20相当の高容量の確保と、タフロングエコに採用した高い充電受入性能を組合せた製品であり、軽自動車専用バッテリーとして、一目でわかるデザインを採用しています。



軽自動車専用バッテリー「Tuflong Mini (タフロング ミニ)」

<本製品の特徴>

- ①多くの軽自動車に対応できるB20サイズを採用
- ②充電受け入れ性能の大幅向上 (当社現行品*³比150%以上)
- ③44B20相当の高容量
- ④耐久性の大幅向上 (発電制御システムを想定した試験条件で当社現行品比125%以上)
- ⑤補水不要の二重蓋構造を採用しメンテナンス性の向上 (B20系では国内初)
- ⑥環境に配慮した設計を行い、リサイクル素材を積極的に採用

当社は今後とも、燃費向上CO₂削減要求に幅広く応えることができる、バッテリーの開発を進めることが最大の使命と考え、引続き地球環境保全に貢献できる製品開発に邁進いたします。

*1) 軽自動車の使用環境に適したバッテリーですが、他の乗用車への搭載も可能です。
*2) 走行中のオルタネーターによる発電を、車両の走行状態、バッテリーの充電状態に応じて制御する事により、エンジン負荷を低減し、燃費向上、CO₂削減を図るものです。
*3) 当社現行品とは、当社の標準シリーズ品をさしています。

【発売時期】2010年12月
【製品保証】36ヵ月または6万k m
【メーカー希望小売価格】オープン価格
【販売目標個数】5万個 (初年度)
【適合する電池】28B19~44B20

| 形式 | 電圧 (V) | 5時間率容量 (Ah) | 最大外形寸法 (mm) | | | | 液入り質量 (kg) |
|------|--------|-------------|-------------|-----|-----|-----|------------|
| | | | 総高さ | 箱高さ | 幅 | 長さ | |
| B20L | 12 | 34 | 227 | 203 | 129 | 197 | 約9.5 |
| B20R | 12 | 34 | 227 | 203 | 129 | 197 | 約9.5 |

10月度電池販売実績（経済産業省機械統計）

（2010年10月）

単位：数量—千個、金額—百万円（小数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

（2009年1月より経済産業省の機械統計が「その他の鉛蓄電池」に「二輪用」が含まれました）

（2009年12月より経済産業省の機械統計が「その他のアルカリ蓄電池」に「完全密閉式」が含まれました）

| | 単 月 | | | | 1月～当月累計 | | | |
|-------------|---------|--------|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|-----------|
| | 数量 | 金額 | 数量 前年比 | 金額 前年比 | 数量 | 金額 | 数量 前年比 | 金額 前年比 |
| 全電池合計 | 462,973 | 56,558 | 94% | 92% | 4,557,360 | 601,431 | 114% | 113% |
| 一次電池計 | 301,193 | 9,638 | 88% | 84% | 2,871,699 | 92,739 | 107% | 100% |
| マンガン乾電池 | 15,185 | 364 | 96% | 72% | 128,084 | 3,047 | 93% | 80% |
| アルカリ乾電池計 | 114,734 | 4,960 | 90% | 86% | 1,004,782 | 43,403 | 95% | 92% |
| 単 三 | 66,687 | 2,393 | 88% | 88% | 571,811 | 21,099 | 90% | 88% |
| 単 四 | 28,450 | 1,048 | 97% | 85% | 266,942 | 9,954 | 104% | 93% |
| その他 | 19,597 | 1,519 | 85% | 83% | 166,029 | 12,350 | 99% | 97% |
| 酸化銀電池 | 76,826 | 916 | 93% | 73% | 726,300 | 8,699 | 125% | 118% |
| リチウム電池 | 91,205 | 3,302 | 81% | 87% | 982,674 | 36,671 | 113% | 112% |
| その他の乾電池 | 3,243 | 96 | 97% | 104% | 29,859 | 919 | 74% | 72% |
| 二次電池計 | 161,780 | 46,920 | 106% | 94% | 1,685,661 | 508,692 | 129% | 115% |
| 鉛電池計 | 2,661 | 12,850 | 104% | 112% | 25,479 | 118,672 | 114% | 115% |
| 自動車用 | 1,962 | 7,960 | 104% | 115% | 18,704 | 70,554 | 119% | 119% |
| 小形制御弁式 | 310 | 849 | 89% | 102% | 2,999 | 8,080 | 97% | 111% |
| その他の鉛蓄電池 | 389 | 4,041 | 115% | 108% | 3,776 | 40,038 | 110% | 110% |
| アルカリ蓄電池計 | 57,481 | 12,224 | 114% | 84% | 576,025 | 143,623 | 139% | 135% |
| ニッケル水素 | 37,190 | 9,784 | 102% | 78% | 383,391 | 118,571 | 132% | 137% |
| その他のアルカリ蓄電池 | 20,291 | 2,440 | 146% | 117% | 192,634 | 25,052 | 153% | 126% |
| リチウムイオン蓄電池 | 101,638 | 21,846 | 102% | 91% | 1,084,157 | 246,397 | 125% | 107% |

10月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（2010年10月）

単位：数量－千個、金額－百万円（小数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

| | 単 月 | | | | 1月～当月累計 | | | |
|------------|---------|--------|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|-----------|
| | 数量 | 金額 | 数量 前年比 | 金額 前年比 | 数量 | 金額 | 数量 前年比 | 金額 前年比 |
| 全電池合計（輸 出） | 241,489 | 26,716 | 90% | 91% | 2,458,223 | 283,356 | 120% | 106% |
| 一次電池計 | 104,140 | 2,127 | 77% | 84% | 1,055,706 | 21,893 | 112% | 114% |
| マンガン | 1,560 | 42 | 269% | 334% | 8,553 | 226 | 77% | 82% |
| アルカリ | 19,959 | 282 | 71% | 63% | 173,049 | 2,870 | 78% | 75% |
| 酸化銀 | 40,668 | 427 | 72% | 72% | 413,524 | 4,436 | 123% | 116% |
| リチウム | 39,901 | 1,277 | 84% | 91% | 443,585 | 13,551 | 125% | 126% |
| 空気亜鉛 | 1,882 | 21 | 92% | 71% | 14,652 | 202 | 102% | 94% |
| その他の一次 | 171 | 78 | 65% | 164% | 2,343 | 608 | 89% | 191% |
| 二次電池計 | 137,349 | 24,590 | 103% | 92% | 1,402,517 | 261,463 | 126% | 105% |
| 鉛蓄電池 | 173 | 749 | 100% | 127% | 1,374 | 5,971 | 119% | 146% |
| ニカド | 17,420 | 1,518 | 158% | 151% | 161,853 | 14,731 | 166% | 160% |
| ニッケル鉄 | 0 | 0 | — | — | 1 | 1 | 7% | 22% |
| ニッケル水素 | 18,924 | 3,873 | 132% | 104% | 157,420 | 39,001 | 127% | 115% |
| リチウムイオン | 92,546 | 17,234 | 96% | 89% | 990,566 | 188,252 | 123% | 105% |
| その他の二次 | 8,286 | 1,216 | 71% | 57% | 91,302 | 13,508 | 112% | 59% |
| 全電池合計（輸 入） | 95,418 | 7,060 | 104% | 104% | 847,907 | 73,851 | 109% | 121% |
| 一次電池計 | 87,556 | 932 | 103% | 91% | 775,224 | 9,836 | 108% | 96% |
| マンガン | 23,691 | 230 | 105% | 85% | 196,835 | 1,964 | 103% | 92% |
| アルカリ | 52,906 | 509 | 102% | 91% | 452,774 | 4,648 | 103% | 93% |
| 酸化銀 | 232 | 5 | 32% | 42% | 4,738 | 139 | 108% | 166% |
| リチウム | 9,134 | 161 | 169% | 134% | 84,651 | 1,985 | 154% | 85% |
| 空気亜鉛 | 1,303 | 18 | 92% | 72% | 18,746 | 315 | 215% | 100% |
| その他の一次 | 291 | 9 | 10% | 23% | 17,480 | 785 | 118% | 177% |
| 二次電池計 | 7,861 | 6,128 | 121% | 107% | 72,683 | 64,015 | 120% | 126% |
| 鉛蓄電池 | 544 | 1,792 | 80% | 92% | 6,080 | 19,897 | 107% | 118% |
| ニカド | 394 | 233 | 50% | 114% | 5,902 | 2,220 | 70% | 92% |
| ニッケル鉄 | 39 | 4 | >>> | 436% | 58 | 17 | 102% | 143% |
| その他の二次 | 6,884 | 4,098 | 137% | 115% | 60,643 | 41,881 | 131% | 134% |